

巻頭言

道づくりへの新発想

審議役

飯田 邦夫

平成11年度の事業は、建設費750億円をもって淀川左岸線、北神戸線、神戸山手線、大阪京都線(新十条通)等の建設を促進すると共に、改築事業費407億円をもって地震防災対策等を実施することになる。

事業規模としては昨年を下回ることになっているが、今年度の目玉はなんと云っても待望していた大和川線、淀川左岸線の2期の基本計画の指示が年度末の3月31日にあり、阪神高速道路の新たな整備目標が設定できたことである。

両路線とも既に都市計画決定、予算措置もされていたが事業採算の問題がネックとなり基本計画の指示が遅れていた。平成11年度予算の中で公的負担の拡大、償還期間の50年までの延長が認められ、採算性について一定の見通しが得られたことを受けての基本計画指示となった。

今回の基本計画の指示については、公共事業に対する社会の厳しい目が向けられる中で、開かれた事業運営という観点から、初めての試みとして事業内容、費用、効果、完成時の料金水準について情報公開し、広く一般に理解を得る形で基本計画指示に至る手続が進められたことも新しい点である。

このようにして基本計画の指示を頂いた新規路線を、我々は早期に工事実施計画書の認可等の手続きを終え、地元関係者の早期完成の熱い期待に応えねばならない。特に大和川線 10.8 km、淀川左岸線 2期 4.3 kmに、合せて8,000億円の巨額の建設費を投入することを考えると、事業の執行に当たり徹底した建設費の管理と縮減への取り組みが求められる。公団ではここ数年色々な角度から建設コスト縮減に取り組んできている所であるが、なお一層新しい発想の転換が必要である。

「一つの目標を達成するにも幾つかの手段がある。もっといい方法があるのではないかと発想することがVEである。」とあるVEスペシャリストの方が云われているが、このような考えに立って我々が日常の業務の中で思考して行くことによって、効率的な建設工事が進められることになる。

上記2路線の建設にはまだ十分に時間があります。これから多くの技術的課題を解決して、立派な道路が完成するように皆様の努力を期待します。